

## 投稿規定

- (1) 論文の内容は、日本を含む東アジアの領域を中心としつつ、他地域も含めたグローバルな文学・歴史・思想・民俗・宗教・芸術・政治・経済・法律・社会等に関するものとしす。
- (2) 投稿資格は、本学の専任及び非常勤教員・特命教授・名誉教授・客員教授・研究員・客員研究員・助手（非常勤）、研究所の企画・活動に参与した研究者、並びに編集委員会が認めた者としす。
- (3) 原稿の枚数は、四〇〇字詰め原稿用紙に換算して六〇枚前後としす。縦書き、横書きは問いません。（掲載が決定してから二週間以内に印刷用原稿を電子媒体で提出することを原則としす。）
- (4) 投稿された原稿は、編集委員会が最終的な採否の決定をしす。
- (5) 執筆者校正は初校のみとしす。なお、校正段階での大幅な修正はできませんので、完全原稿で提出してください。（大幅な修正があった場合は、応分の費用を負担願うこととなります。）
- (6) 各執筆者に抜き刷りを五〇部及び本誌五部を贈呈しす。なお、抜き刷り増刷は、実費でいたしますので、事前に申し込みください。
- (7) 本誌に発表されたものを転載する場合は、予め運営委員会にご一報の上、出版物を一部東アジア学術総合研究所にご寄贈下さい。（『年次別論文集』への掲載を除く。）
- (8) 本誌に掲載された全ての論文等については、原稿を電子化媒体によって複製、公開し、公衆に送信することができるものとしす。
- (9) 執筆要領の詳細については、研究所までお問合せください。

## 編集後記

『集刊』第四五集をお届けいたします。本誌には八名の投稿者を得ました。中国文学系三名、国文学系一名、書道系一名、政治経済学系一名、法学系一名、資料紹介一名であります。東アジアに関する諸問題を広く取り上げるといふ本誌の目的に沿った傾向は維持されていると申せましょう。ただ今回は国文学系がやや手薄で、古典から近代まで幅広い投稿をお待ちしています。懸案でありました査読制度の導入につきましては、概ねの了承は得ておりますものの、その方法についてはなかなか難しい部分があり、なお継続して論議いたす予定です。

東アジア学術総合研究所内に、「海外講座企画・推進室」を部局として立ち上げました。二一世紀COEプログラム以来の漢文訓読海外講座への、関係各国からの要望等到大いに力を発揮することとなりました。また訓読以外の日本文化関係の講座要請にも対応する予定です。ちなみに今年度は、ハンガリー国立エトヴェシュ・ロラード大学との間に、学術交流協定が締結されました。

本年一月、研究所は新校舎四号館九階へ移転いたしました。また二月には、文部科学省の支援事業への申請が行われました。研究所内の「日本漢文教育研究推進室」を中心とした計画で、採否の結果は新年度に判明いたします。

なお、前年に引き続き、高山が所長に再任されました。微力を尽くす所存です。誌面をかりてご報告いたします。